



38カ所の無医地区

都市偏在の改革が課題

地域医療

地域発 2025 参院選

田畑が広がる杵築市大田石丸の大田中央公民館。14



訪問診療車でオンライン診療を受ける地域住民(白モニター画面に映るのは杵築市立山香病院の小野隆司院長)。14日、杵築市大田石丸、撮影・江藤成吾

日午前、近くに住む60〜80代の男女9人が集まった。看護師から問診を受けた後、1人ずつ大型のワゴン車に乗り込んだ。「モニターで先生の方を見てください」。約10分離れた市立山香病院(同市山香町野原)にいる小野隆司院長(63)が、画面越しに診察をした。

ワゴン車は、山香病院が

県内の医療機関で初めて導入した訪問診療車(医療MaaS)。4月から本格運用を始めた。周辺に医療機関がない無医地区などを回り、オンラインで遠隔診療をしている。

この日、膝の痛みで受診した保育士の女性(66)は、これまで通っていた近くのかかりつけ医が6月に閉院したという。「なかなか病院に行くタイミングがなかった。画面越しでも診てもらえてホッとした」と話した。

県医療政策課によると、半径約4kmの範囲に50人以上が暮らす地区のうち、車などを使っても1時間以内に医療機関を受診できない「無医地区」は県内に38カ所ある(2022年10月時点)。北海道、広島県に次いで全国で3番目に多い。

大分県内の病院と診療所は計1113カ所(22年10月1日時点)、医師は計3298人(22年12月末時点)。人口当たりでは全国平均と遜色ないという。

課題になっているのは都市部への偏在だ。県内を6地域に分けた「医療圏」で

は、大分市を含む「中部」と別府市などの「東部」に、医療機関の6割以上、医師の7割以上が集中。地域によって医療提供体制に大きな差が生じている。

「県医師会や大分大医学部などと連携を深め、医師の確保に努めて地域差を少しでもなくしていきたい」と県医療政策課。若手の医師を呼び込もうと、地域医療を志す県内出身の医学生への修学資金貸与や、臨床研修医を対象にした地域の医療現場を巡るバスツアーにも取り組んでいる。

地域医療に詳しい県医師会の三島康典・常任理事(58)は「大分三愛メディカルセンター理事長は、このままでは地域のかかりつけ医や診療所がなくなり、住民が診察を受けられなくなってしまう。オンライン診療や訪問診療は解決策の一つだが限界がある」と危惧する。

医師の偏在は全国的に見られる問題という。「地域の患者を取り残さないためにも、若い医師が地域で働き続けられるような制度改革が求められる」と訴えた。(松尾祐哉)



〔問①〕 「無医地区」とはこういった地区ですか。

半径4キロの範囲に50人以上が暮らす地区のうち、車などを使っても1時間以内に医療機関を受診できない地区

〔問②〕 県内に6つある「医療圏」のうち、大分市を含む「中部」と別府市などの「東部」には何がどのくらい集中していますか。2つ答えましょう。

医療機関の6割以上、医師の7割以上

〔問③〕 記事の女性の例のように、無医地区が広がることでどのような問題が起こると考えられるでしょうか。あなたの考えを書いてみましょう。また、周りの人とも意見交換してみましょう。

自由記述